

岩手県農業研究センター



岩手県農業研究センター畜産研究所本庁舎



家畜ふん尿処理施設全景

雄大な岩手の麓、場内で発生する乳用牛、肉用牛、豚、鶏のふん尿が処理されています。



発酵処理施設内部

水分調整されたふん尿は、円形発酵槽で攪拌発酵されます。写真は発酵槽を被う捕臭のためのカーテンで、悪臭はドーム上部から脱臭装置に送られます。



ロックウール脱臭装置

集められた悪臭は、パイプを通して右側のロックウール脱臭装置へ送られます。



ロックウール脱臭装置内部

脱臭槽内部には脱臭材が堆積されており、悪臭は脱臭材に付着する微生物により分解されほぼ無臭となります。

口絵説明

岩手県農業研究センター畜産研究所

1. はじめに

岩手県は四国4県に匹敵する広大な面積を有し、畜産部門産出額は全国4位で、畜種別産出額で見るとブロイラーは全国1位、乳・肉用牛は各々6位の有数の畜産県です。また、積雪冷涼な北上山系と奥羽山脈を中心に広大な飼料基盤を有し、県の農業産出額の50%強が畜産部門に由来するなど、県農業の基軸として畜産の担う役割は極めて高いものとなっています。

1. 沿革と概要

岩手県農業研究センター畜産研究所は岩手郡滝沢村の本所、盛岡市玉山区の外山畜産研究室および気仙郡住田町の種山畜産研究室の3カ所の施設から成っています。

滝沢村の畜産研究所本所は明治31年に盛岡市に「種馬厩」として開設され、同34年に「岩手県種畜場」と改称、昭和37年に「岩手県畜産試験場」となっています。

外山畜産研究室は最も歴史が古く、明治9年に「外山牧場」として開設され、明治24年に宮内庁御料牧場となり大正11年に岩手県に払い下げられ、昭和37年に「岩手県畜産試験場外山試験地」さらに同46年に「外山分場」と改称されています。

種山畜産研究室は明治34年に「軍馬補充部六原支部種山出張所」として開設され、昭和25年に「県営種山牧野」となり同37年「種山牧野事務所」と改称、平成8年に畜産試験場「種山肉用牛改良センター」となっています。

平成9年の試験研究機関の組織再編により「県畜産試験場」は「岩手県農業研究センター」の下に「畜産研究所」として位置づけられ今日に至っています。

2. 飼料生産研究室の業務内容

地域に適した草種・品種の選定や生産技術、効率的な収穫調製技術、粗飼料の品質評価技術の開発等を行うとともに、寒冷地に対応した家畜糞尿処理技術の開発等の環境対策に取り組んでいます。

3. 環境技術に係る研究目標

家畜糞尿の有効利用と環境負荷を軽減する技術・システムの開発

飼養規模の拡大や飼養地域の特化などによる家畜糞尿処理問題が顕在化しており、水質汚濁や悪臭等の環境汚染問題の発生が懸念されていますが、家畜糞尿を大切な資源として捕らえ適正処理と利用技術の開発を推進しています。